

パリエット®S

使用者向け情報提供資料

使用者向け情報提供資料について

使用者向け情報提供資料は、服用者の皆様や家族の方などに、医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。したがって、この医薬品を服用するときに特に知っていただきたいことを、製品に添付されている説明書を基に、わかりやすく記載しています。

ご不明な点などありましたら、裏表紙に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

パリエットSの使用に際して特に知っておくべき注意事項

- 3日間服用しても症状の改善が見られない場合は服用を中止し、製品に添付されている説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください。
- 他のプロトンポンプ阻害薬の使用期間も合わせて2週間を超えて続けて服用しないでください。(重大な消化器疾患を見逃すおそれがありますので、医師の診察を受けてください。)

医薬品の服用による副作用と考えられる場合には、直ちに服用を中止し、医師又は薬剤師に相談してください。

*2026年7月改訂(使用上の注意の改訂)

目次

1	この薬の効果は？	2
2	この薬を使う前に、確認すべきことは？	3
3	この薬の使い方は？	4
4	この薬の使用中に気をつけなければならないことは？	5
5	この薬の形は？	7
6	この薬に含まれているのは？	7
7	その他	7
8	気をつけてほしいこと	8
9	Q&A	9

1 この薬の効果は？

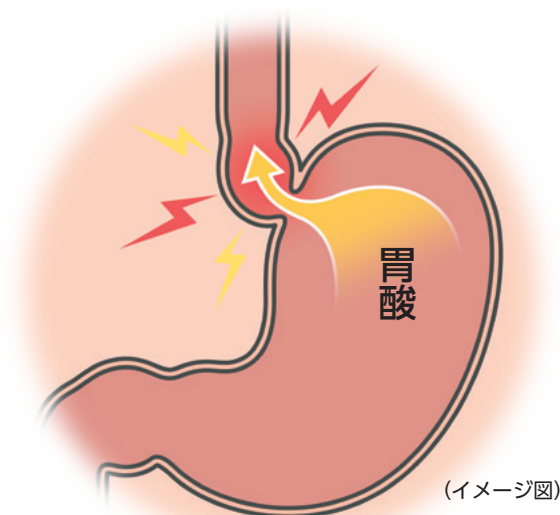
パリエットSは、胃酸の分泌を抑えるラベプラゾールナトリウムを有効成分とするスイッチOTCの胃薬です。食道への胃酸の逆流に伴う胸やけや胃酸の過剰分泌によって起こる胃の痛みなどの症状に効果を発揮します。

パリエットSは、こんな症状に効果があります。



胃酸の逆流とは？どんな症状が起こるの？

通常、食道と胃の境目（食道下部括約部と呼ばれる）は閉じていますが、食生活の変化や加齢により、この部分のしまりが悪くなると胃酸が逆流して食道を刺激し、胸やけ、もたれ、苦い水が上がってくるなどの不快な症状が起こります。



2 この薬を使う前に、確認すべきことは？

- ◆ 購入前には、あなたの症状や体調について、右のツールにより薬剤師の確認と説明を受けてください。そのうえで、あなたの症状・状態に適した一般用医薬品やその他の対処法について十分に説明を受けてください。

パリエット®S チェックシート Eisai 要指導医薬品

パリエット®S (本剤) は、胃酸の逆流や胃酸の過剰分泌による胸やけ、胃の痛みなどの症状を改善するラベプラゾールナトリウムを有効成分とするスイッチOTCの胃薬です。
本剤を購入する前に以下の項目についてご確認ください。不明な点は医師又は薬剤師にご相談ください。
*胃酸の過剰分泌を抑えるプロトンポンプ阻害薬に分類されます。

あなたのお悩みの症状は？▶▶ 該当する症状に☑をつけてください。

☐ 1. 胃が痛む ☐ 2. 胸やけ ☐ 3. 胃がもたれる ▶▶ 該当項目がない 本剤の対象者ではありません。

↓ **1.~3.のいずれかに☑がある**

● 次のいずれかに該当しますか？

本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある。	☐ はい ☐ いいえ	▶▶ いずれかがはい 本剤を服用することはできません。医師又は薬剤師に相談してください。
医療機関で次の医薬品の投与を受けている。 リルピピリン塩酸塩	☐ はい ☐ いいえ	
他のプロトンポンプ阻害薬の使用期間も合わせて2週間続けて服用している。(重大な消化器疾患を見逃さずおそれがありますので、医師の診察を受けてください。)	☐ はい ☐ いいえ	

↓ **全ていいえ**

● 次のいずれかに該当しますか？

現在、医師の治療を受けている。 (ジキシン、メチルジギキシン、イトラコナゾール、グフィチニブ、メトシキサートのいずれかを服用中である場合を含む。)	☐ はい ☐ いいえ	▶▶ いずれかがはい 本剤を服用することはできません。医師又は薬剤師にご相談ください。
肝臓病又は、胃・十二指腸潰瘍の診断を受けている。	☐ はい ☐ いいえ	
妊娠中または妊娠している可能性がある。	☐ はい ☐ いいえ	
高齢者である。	☐ はい ☐ いいえ	
現在、次の症状がある。 原因不明の体重減少、持続性の胃痛・腹痛	☐ はい ☐ いいえ	

↓ **全ていいえ**

● 薬剤師から説明を受け、情報提供資料をよく読んでパリエット®Sをご購入ください。
● 使用に際しては、事前に薬剤師から説明を受け、製品に添付されている説明書(添付文書)を必ずお読みください。
● 3日間服用しても症状の改善が見られない場合は服用を中止し、添付文書を持って医師又は薬剤師に相談してください。
● 症状が改善しても2週間を超えて続けて服用しないでください。

医師又は薬剤師に、本剤の服用が可能と判断された

◆ 次の人は、この薬を服用することができません。

- (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人
- (2) 次の医薬品を服用している人
 - リルピピリン塩酸塩
- (3) 本剤を服用している間に、次の医薬品を服用する人
 - 他の胃腸薬
- (4) 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください。
- (5) 他のプロトンポンプ阻害薬の使用期間も合わせて2週間続けて服用している人(重大な消化器疾患を見逃さずおそれがありますので、医師の診察を受けてください。)

◆ 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください。

- (1) 現在、医師の治療を受けている人
- (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人
- (3) 高齢者
- (4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
- (5) 次の症状のある人
 - 原因不明の体重減少 ● 持続性の胃痛・腹痛
- (6) 次の診断を受けた人
 - 肝臓病 ● 胃・十二指腸潰瘍

3 この薬の使い方は？

- ◆ 使用に際しては、事前に薬剤師から説明を受け、製品に添付されている説明書を必ずお読みください。

使用期間の注意

- 3日間服用しても症状の改善が見られない場合は服用を中止し、製品に添付されている説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください。
- 他のプロトンポンプ阻害薬の使用期間も合わせて2週間を超えて続けて服用しないでください。(重大な消化器疾患を見過ごすおそれがありますので、医師の診察を受けてください。)

用法・用量

次の量を水又はお湯で服用してください。

- 2週間を超えて続けて服用しないこと。

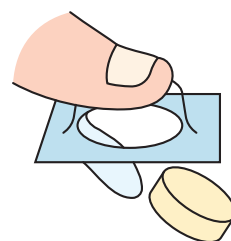
年 齢	1回量	服用回数
成人（15歳以上）	1錠 ○	1日1回
小児（15歳未満）	× 服用しないこと	

用法・用量に関連する注意

- (1) 用法・用量を厳守してください。
- (2) 本剤は腸で溶けるお薬ですので、かんだり、砕いたりせずに服用してください。
- (3) 1日1回同じ時間帯に服用してください。
- (4) 症状が治まった場合は、服用を止めてください。
 - 誤って定められた用量を超えて服用してしまった場合は、服用を中止し、異常があれば製品に添付されている説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください。
 - 服用し忘れてしまった場合、服用し忘れた分を翌日まとめて服用しないでください。飲み忘れに気づいた時点で、できるだけ早く服用してください。

[錠剤の取り出し方]

右図のように、錠剤の入っているシートの凸部を指で強く押して、裏側のアルミ箔を破り、錠剤を取り出して服用してください。(誤ってシートのままのみこんだりすると食道粘膜に突き刺さるなど思わぬ事故につながります。)



効能・効果

胃痛、胸やけ、もたれ（本剤は胃酸の分泌を抑えるプロトンポンプ阻害薬を含んでいます）

4

この薬の使用中に気をつけなければならないことは？

1. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、製品に添付されている説明書を持って医師又は薬剤師に相談してください。

関係部位	症状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	便秘、下痢、腹部膨満感、吐き気・嘔吐、口内炎、腹痛、苦味、飲み込みにくい・胸やけ・嘔吐・口腔内白斑（カンジダ感染症が疑われる）、胃もたれ、口の渇き、食欲不振、舌炎
精神神経系	頭痛、めまい、ふらつき、眠気、四肢脱力、知覚鈍麻（知覚の低下）、握力低下、口のもつれ、失見当識（場所、時間、名前などが判らない）、せん妄（錯覚や幻覚を伴う軽い意識混濁）、昏睡（意識が完全に消失した状態）
循環器	血圧上昇、動悸
その他	貧血、目のかすみ・ちらつき、浮腫、倦怠感、発熱、脱毛症、しびれ感、関節痛、筋肉痛、女性化乳房

2. まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれます。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化します。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれます。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれます。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりします。
横紋筋融解症	手足・肩・腰等の筋肉が痛む、手足がしびれる、力が入らない、こわばる、全身のだるい、赤褐色尿等があらわれます。
血液障害	のどの痛み、発熱、全身のだるさ、めまい、息切れ、顔やまぶたのうらが白っぽくなる、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、出血しやすくなる（歯茎の出血、鼻血等）、青あざができる（押しても色が消えない）等があらわれます。
低ナトリウム血症	けいれん、意識の低下、頭痛、吐き気、嘔吐等があらわれます。
視力障害	文字や形がみえにくい、視野の異常等があらわれます。
錯乱状態	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない等があらわれます。
* 低マグネシウム血症	吐き気、嘔吐、食欲不振、体のだるい、顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、しびれ、めまい、動悸、気を失う等があらわれます。

5 この薬の形は？

剤 形:フィルムコーティング錠（腸溶錠）

直 径:6.7mm

質 量:132mg

色 : 淡黄色

6 この薬に含まれているのは？

有効成分（1錠中）：ラベプラゾールナトリウム 10mg

添 加 物：酸化Mg、タルク、ヒドロキシプロピルセルロース、D-マンニトール、
エチルセルロース、カルナウバロウ、カルメロースCa、グリセリン脂肪酸エステル、
酸化チタン、三二酸化鉄、ステアリン酸Mg、ヒプロメロースフタル酸エステル

7 その他

保管及び取り扱い上の注意

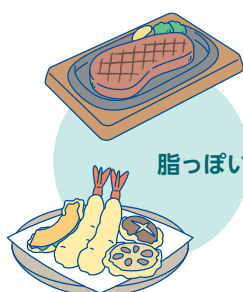
- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しいところに保管してください。
- (2) 小児の手の届かないところに保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。（誤用の原因になったり品質が変わります。）
- (4) 内袋（アルミの袋）の中に乾燥剤が入っています。服用しないでください。
- (5) 使用期限をすぎた製品は使用しないでください。
- (6) 使用期限内であっても内袋（アルミの袋）を開封した後は、品質保持の点から6ヵ月以内に使用してください。箱の開封口の「開封年月日」欄に、開封日を記入してください。

8 気をつけてほしいこと

◆ 脂肪の多い食品の摂りすぎや、肥満、ストレスなども胃酸逆流増加を引き起こす原因になります。そのため、生活習慣の改善（食事や日々の暮らし）をあわせて行うことが大切です¹⁾。

1) 岩切勝彦ほか、『胃食道逆流症（GERD）診療ガイドライン（2021）』p46.日本消化器病学会

日常生活の注意点



脂っぽいもの

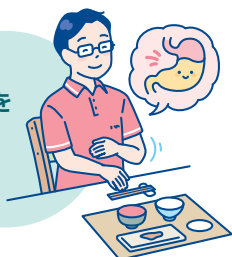


甘いもの



刺激の強いもの

いつも腹八分目を心がけましょう。



食べた後、すぐ横にならない。



早食い、食べすぎはいけません。



胃酸の分泌を促進するものは控えましょう。



普段から背筋を伸ばし前かがみにならない。



お酒・タバコは控える。



ベルトや下着などでしめつけない。



就寝中はお腹から頭にかけて高くする。



重いものなどを持ち上げない。



適度な運動をする。



9 Q&A

Q1.パリエットSは、いつ服用すればよいですか？

A 1. 食前食後など時間や食事に関係なく、胸やけ、胃痛、もたれの症状があらわれた時に服用いただけますが、1日1回同じ時間帯に服用してください。

Q2.パリエットSは、服用してからどれくらいで効きますか？

A 2. 本剤の酸分泌抑制効果は服用1時間後から効果が確認されており、1日1回1錠で24時間効果が期待できます。ただし、効果発現には個人差があることが考えられますのでまずは1日1回3日間服用いただいて効果改善を判断ください。3日間服用しても症状の改善が見られない場合は、製品に添付されている説明書を持って医師又は薬剤師にご相談ください。

Q3.パリエットSは、継続して服用してもよいですか？

A 3. 症状が治まった場合は、服用を止めてください。重篤な副作用の発現リスクが高まるおそれ、又は重大な消化器疾患を見逃すおそれがありますので、他のプロトンポンプ阻害薬の使用期間も合わせて2週間を超えて続けて服用しないでください。ただし、3日間服用しても症状の改善が見られない場合は、製品に添付されている説明書を持って医師又は薬剤師にご相談ください。

Q4.他の胃腸薬を服用している場合、なぜパリエットSを服用する前に医師又は薬剤師に相談する必要があるのですか？

A 4. 他の胃腸薬との重複投与を防ぐ目的で相談する必要があります。併用による作用の増強や副作用発現の可能性に留意する必要があります。

Q5.他の胃酸を抑える薬（H₂ブロッカー）との違いを教えてください。

A 5. 胃酸はヒスタミン、アセチルコリン、ガストリンのいずれかの刺激により分泌されます。H₂ブロッカーはヒスタミンによる刺激をブロックして胃酸分泌を抑えます。一方、プロトンポンプ阻害薬（PPI）は胃酸の出口にあたるプロトンポンプを阻害することで胃酸分泌を抑えることから3つの刺激のいずれによる酸分泌も抑えることができます。また、PPIの効果持続は長く、1日1回の服用で効果が持続します。

Q6.他のPPIとの違いを教えてください。

A 6. 胃酸分泌を抑える機序は同じです。各成分毎に副作用や相互作用に注意の必要な薬剤が異なります。ラベプラゾールナトリウムは他のPPIと代謝経路が異なるため、注意すべき薬物相互作用の数が1番少ない薬剤です。

Q7.なぜ3日間服用しても症状の改善が見られない場合は服用を中止しないといけないのでしょうか？

A 7. PPIの服用を3日間継続すれば、胃酸関連の症状はある程度改善すると考えられます。まったく症状の改善が見られない場合は胃酸以外の原因により症状が起きていることが考えられるため、服用を中止いただき医師又は薬剤師にご相談ください。

この薬についてのお問い合わせ先

◆症状、服用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、薬剤師にお尋ねください。

◆一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

連絡先 エーザイ「hhcホットライン」

電話番号 0120-161-454 (フリーダイヤル)

受付時間 平日9:00～18:00 (土・日・祝日9:00～17:00)



製品の内容はホームページ
でも紹介しています。



eisai.jp

◆医薬品を適正に使用したにも関わらず副作用による一定の健康被害が生じた場合に、医療費などの給付を行い、これにより被害者の救済を図ろうという「医薬品副作用被害救済制度」があります。この制度に関するお問い合わせは下記にお願いします。

(独)医薬品医療機器総合機構

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

電話番号 0120-149-931 (フリーダイヤル)